

# 弁護士に破産申し立てを依頼した後...してはならないこと

**分かつちやいるのに止められない  
決断できずに躊躇するその訳は...**

創立以来ずっと取引のあった金融機関からの融資が打ち切られて運転資金が調達できなくなると、仕入先へのペ日や支払日をずらしたり、手形支払いにして何とか持ち堪えようと頑張る。それでも叶わないと：家族、友人、親戚、ノンバンク、サラ金、街金融と次から次へと新たな借入先を探し求める。パブル絶頂期には中小企業にも神風が吹いた。資金が苦しいな：と心配しているが舞い込み会社が息を吹き返した：という話をよく聞いたものだ。だが、現在はどうなるに神風を期待していても、絶対に期待通りに神風が吹くようなこととはないと断言できる。

中小企業の社長達に「何故もつと早く整理する決断をしなかったのか：」と聞くと「会社がなくなったら、自分には外に出来る仕事がないから：だから止める訳にはいかない：もうすこし頑張りたい！」との答えが返ってくる。誰が見ても：、家族が見ても：、私が見ても：、社長自身さえもそうする方が良いのかな？と何度か口にしてい

## 弁護士に委任することによって 債権者の催告がピタリと止まる...

破産申立の手続きを弁護士に委任するときに持参するものは、債権者一覧表（債権者名、債務の種類、債務金額、番号、住所、電話番号：）、印鑑、現金（弁護士費用、裁判所への予納金）である。

- ① 破産申立の費用を何とか知人から借りてきて弁護士に委任：、弁護士が債権者に対して受任通知を発送すると社長に対する催促の電話は驚くほどにピタリと止まる。「もつと早く決断して
- ② 家族の住民票と戸籍謄本
- ③ 財産目録と証憑（現金、預貯金、株券類、生命保険証書、保険の解約返戻金計算書、会員権など）
- ④ 不動産関係の資料（登記簿謄本、ローン残高表、評価証明書）
- ⑤ 所得を証明するもの（源泉徴収票、納税証明書など）
- ⑥ 自動車の手帳証など
- ⑦ 家族構成と職業
- ⑧ 身上書（最終学歴、職歴、免許、資

## 弁護士に委任した後 してはならないことがある

破産申請をすることで弁護士から幾つかの制限事項を説明される。  
① 財産を隠蔽したり許可なく処分してはならないこと。② いつでも連絡が取れるようにしておくこと。  
そして申請に必要な資料を準備するように指示を受ける。

破産費用を捻出するのに委任の直前に生命保険を解約した：と云うのならまだしも、株券や預貯金を解約して他人名義の口座に移したり、生命保険の積立金を申告せず隠蔽しようと企てたり、自動車を他人名義にしたり：、といった行為が管財人に発覚した場合破産決定後の免責を受けることが出来ないことなる重大な誤った行為だ。  
管財人は、債務者宛の郵便物は全て管財人に転送して開封し内容を確認するので、半年ぐらいの期間で隠した財産の殆どが暴露されてしまうと思っていなければならぬ。発覚したら免責を受けられなくなる。さあどうするか。問題となる事例はまだまだ書ききれないが、土壇場になって慌てないために、債務整理は早期対策が必要であることを改めて認識してほしい。

# R.F.C

リスク・カウンセラー & ファイナンシャル・カウンセラー

# Information & Report

2005.08.19 Vol.2005-08

【おぼろげな風景】  
蒸し暑いが大と夜の公園散歩。雑木林を抜けると、ジジッと蝉が鳴いた。少年の頃の夏の情景が甦った余韻で早朝の公園に散歩に出かけた。梢の高いところまで「ミンミンミンミン...ミンミンミンミン」が鳴く。ジジッとアブラゼミの鳴き声も聞ける。足下の葉の裏に朝陽に透ける暖れそうな蝉の抜け殻を見つけた命の不思議さを感じ嬉しくなった。先週、大阪に出張したか三五Cを超える猛暑だった。岸和田市役所に足を伸ばしたついでに裏の岸和田城に立ち寄り、ジャオジャオジャオ...と東京では聞き覚えのない騒々しい鳴き声に何だ？と啞然。地中から湧き出る蝉が枝を揺るがすように留まっている。虫籠を持った少年に聞くと鳴いているのはクマゼミのような。芭蕉が「閑かさや岩にしみ入る蝉の声」の句を詠った外は関西ではないと確信した。まらがない！（細野）



いれば良かった：」と、ホツとした後の一言だ。毎日：毎日：毎日：。車を運転しているときも：、食事しているときも：、入浴しているときも：、テレビを観ているときも：、横になっているときも：。頭の中は借金返済のための資金繰りのことがグルグル回り、支払い延期の弁解に翻弄されていた忌まわしい時間から解放されたからだ。  
決断できない理由を並べ立てていても、結局、最後の決断をするときは、街金融から借りたお金の繰り回しが行き詰まったときで、債権者からの一日数回の催促の電話に耐えきれずによく観念する。こう云うと街金融の催促行為が酷いように感じられるかも知れないが、私にはむしろ借りた社長に大きな責任があると思う。債務一覧資料を見ると借りたまま一度しか返済していない事例が多いのを見ると、高利貸と非難される街金融であっても、返済の当てもなく借りられたのでは街金融業者が気の毒とさえ思うこともある。



7年間の真っ暗な土中の生活から抜け出て、明るい世界へ飛び立つドラマのが繰り広げられていたのだろうか。ガラス細工のような銜色の抜け殻はしっかりと小枝を掴み朝陽に透け輝いていた。

格）を整理しておくことになる。  
手続きが粛々と進行して精神的に楽になってきた頃：人間とは実に身勝手なもので、債権者からの催促が止まると：かなり冷静になる。  
冷静になって考えたらこれからの生活資金に少しでも余裕が欲しくなってくるのが本音らしい。そして：だんだん欲が出てくる。数ヶ月前に散々云ったおいたにもかかわらず、再起のための準備の説明には全く耳を貸さずトントン頑張ったあげく倒産した：、そんな社長に、しばしば問題を引き起こし弁護士を悩ませる事例がある。

## 着重ねることは易しくても... 終わりを知り脱いでいくことは難しい!

サラリーマンとしてではなく、自分の中で燃えてきた事業に対する夢を自分自身で叶えたいと会社を設立している人は毎年数十万人います。コツコツと貯めてきた資金を元手に小さな会社を設立する人、友人知人や投資家などのスポンサーからまとまった資金を募って一気に業界に打って出て新たな風を創り出す人。先代がやっていた会社を承継した場合を除き、いずれにしても、ほとんどの社長は会社を始めた当初には慎重しやかに無駄遣いを押さえ、机もロッカーも自動車もコンピュータも、どれを購入するときも夢を積み上げるような想いをもって手に入れていきます。少しずつであっても、事業の規模を拡大させるためには夜も日も忘れ頑張っています。それでも苦しく感じることはないのです。少しずつながら事業規模を拡大させてきた実績が自分への新たな力となって自信を高め、さらにその自信が意欲となって事業規模が拡大していきます。創業して、がむしゃらに働いていると5~10年はアツと言う間に過ぎてしまいます。たしかに拡大は心地良いものです。永遠に拡大できると信じていたいでしょ。

先日「良い死に方が出来るようにするために、周囲の人に感謝しながら毎日を大切に生きています…」という言葉を聞きました。ライフプランを作成する時に、自分の寿命を考慮しないプランを立てる人はいませんよね。

それと同じように…会社を設立したら、会社がどんな状況になったら止めるのか…、自分はいつまでやり続けるのか…、自分が病に倒れた時はどうするのか…、自分が死んだらどうなればいいのか…など、常に会社を止める時の条件を具体的に描いて経営していくことも大切なことではないかと思えます。

たとえば、急激に売上が下がってしまい、苦しくなった資金繰りを切り抜けるため銀行に融資を申し込んだ際に、自分以外の連帯保証人がいなければ融資が受けられないと言うことになった時…どう決断しますか?。経営を続けるためには出資者を募り資本金を補充しますか?。妻や子供や友人を連帯保証人にして現状のまま会社経営を続けますか?

売上の減少に応じて、規模の縮小が出来るように英断をふるうことが出来ますか? 会社が再生できるか出来ないかは、このように売上規模が激減した時点で、社長がどのように決断し、そして…どのように行動したかがその後になって「再生(再起)分岐点」と言うような大きな問題となっていることを目の当たりにしてきているのです。

ここを乗り越えさえすれば…、まだ何とかなるだろう…と、後になって取り返しのつかない道を選択していることに気がつかないのです。他人(連帯保証人や債権者のこと)の迷惑より己のことしか考えない社長…まさに「自己中」の社長ほど、周囲を巻き込んでいる場合があります。

いざとなったらサッ!と瞬時に規模を縮



## リスク・カウンセラー奮闘記

小できるような自在変容型の経営の方が、いけいけドンドンの拡大型経営者より高く評価されるのではないのでしょうか。

### 立ち位置と目線の方向が変わると...

経営が苦しくなったとき、目の前の問題を解決することに執拗に意欲を燃やして無駄な時間を費やしている経営者を目にする事が多々あります。目の前に起きた問題に固執しすぎているがために否定的、悲観的になり、周囲の人から見ても明らかに心神耗弱の状態になっている社長の相談を受けることがあります。

時間をかけて話を聴いていくのですが「問題は必ず解決できますよ…」と言ってから、問題の絡んだ糸をほぐしていきます。目線の高さを変え、視点を変え、方向性を見定めていくことで一気に問題の解決が出来ることが多いのです。

先日ある方から、自分自身の【「・」と「→」】(点とベクトル、位置と方向)を正しく見極めて行動することの大切さを教えていただきました。問題が起きて目の前が真っ暗になった時でも、まずは落ち着いて自分が置かれたている立場を認識し、進むべき方向をじっくりと見極めることが大切なのだと思います。

他人にとっては小さな問題にしか見えないのに、本人にとっては身動きできないほど大きな問題と受け止めてしまっている場合もあります。それを一緒に解決することで苦しみは半分になります。リスク・カウンセラーの仕事って、そんな風に役に立てればいいのかぁ〜と思っています。

ふるまいみず

### 振舞水を撒き続けられる幸せを見つけて...

真夏の太陽がジリジリと照りつける舗道を歩いている時、植木や舗道にたっぷりと水撒きをしている家の前を通ると、足下から生まれた小さな風がそこを通る人々を癒し、顔が見えなくてもそのこの家人の心遣いが伝わってきて嬉しい気持ちになるものです。

お客様の家に訪問したときに、冷たい麦茶に添えてきつく絞った冷たいタオルをそっと差し出してくださった時なども、同じように家人の心遣いを爽やかに感じることが出来るものです。

抱えきれないほどの問題に押しつぶされ、身体も心も疲れ果ててしまっている人々に接することが多い仕事でもあるので、猛暑の道を行き交う人々に潤いと安らぎを感じてもらえるように、いつまでも私なりの振舞水を撒き続けたいと思います。



岸和田城のお濠に咲く蓮の花。ときどき葉を揺らす亀があちこちに鼻を出して浮いていた。

R.F.C Information & Report・第020号 2005.08.19 No.2005-08

◇発行者 株式会社ホロニクス総研 〒113-0033 東京都文京区本郷1-35-12 かんだビル7階



◇責任者 代表取締役・リスクカウンセラー 細野 孟士 (t-hosono@holonics.gr.jp)

◇連絡先 Phone(03)5684-0021 Fax.(03)5684-0031

<http://www.holonics.gr.jp>

【ホロニクス】(英: Holonic) 全体(ホロス)と個(オン)の合成語。すなわち組織と個人が有機的に結びつき全体も個人も生かすような形態を言う。生物は個々の組織が自主的に活動すると同時に独自の機能を発揮する一方でそうした個が調和して全体を構成する(小学館「カタカナ語の事典」より)